

# 博士学位論文 審査結果の要旨

芝浦工業大学大学院 理工学研究科 博士（後期）課程  
博士学位論文審査委員会

主 査 篠崎道彦

審査委員 桑田 仁

審査委員 前田英寿

審査委員 志村秀明

審査委員 斉藤 圭

\*審査委員

氏 名	Teh Bor Tsong
論文題目	Transit-Oriented Development Zoning Intensification Assessment in Malaysia: Case of Kuala Lumpur Monorail, Malaysia
〔論文審査の要旨〕 マレーシアの都市計画における公共交通試行型開発（TOD）概念の実質的な適用を目指し、クアラルンプール市のモノレールを事例に TOD 推進による現行都市計画の評価を目指した研究である。第一章で研究の背景と位置づけ、目的を述べ、第二章で既往研究のレビューを通して、公共交通の利用圏として 400m が当地にあっても適切であることを示した。第三章では人口関連の詳細な統計データの整備公開が未発達な状況を踏まえ、用途別床面積から就業人口を推定する方法を開発し、その有効性と精度についてまとめた。これらの結果に基づき、第四章では、クアラルンプール市の現行都市計画の計画フレームをベースに、駅徒歩圏である駅から半径 400m 圏内のアップゾーニングと半径 400m 圏外の開発余地のダウンゾーニングによる計画案のシナリオを提示し、都心部開発によって増加するモノレールの利用者を推定した。その結果、現実的な車両増結と駅舎改良を前提とした時、駅徒歩圏 60%のアップゾーニングシナリオが、クアラルンプールの都心モノレール沿線 TOD としてバランスの良い選択となり得ることが示された。  審査および公聴会は、2019 年 8 月 2 日 16:30 から約 2 時間、豊洲キャンパス 408 教室において実施した。論文内容の発表と質疑応答の結果、予備審査での指摘事項に対して概ね適切な修正と追加作業がなされていることが確認された。審査委員による評価は、5名の審査員いずれも専攻の定める合格基準を満たし、投票においても全員から合判定を得て審査は合格となった。 尚、審査委員会から、発表時にまとめとして用いられた図版 1 葉と解説の追加、開発者負担による駅および関連施設整備の可能性についての追記が提案され、扱いと確認は主査に一任された。	